



# 「わかば便り」 第4号 (H28.1)



あけましておめでとうございます。



今年が良き年でありますよう、皆様ならびにご家族のご健康とご多幸をお祈りいたします。

さて、新年のスタートですので今年1年の誓いを披露する所ですが、当クリニックの理念や目指す方向は開業当初から変わりませんので、当クリニックが力を入れている“訪問診療”についてお話ししたいと思います。

今回はその第一弾、まずは院長からのお話しです。

新年あけましておめでとうございます。さて、訪問診療についてまずは私からお話しさせていただくということですが、開業当時からホームページに掲載している「訪問診療への想い」を読んでいただくことが一番かと思えます。ちょっと長いですが一読いただければ幸いです。

\*\*\*\*\*訪問診療への想い（ホームページより）\*\*\*\*\*

現代は、あまり家で看取るといことがされていない時代です。そのようななかでも在宅で一緒に暮らしたい、暮らそうと選ばれたご家族のために、大切な時間や家族の絆を支えるサポートを行いたい、すなわち在宅緩和支援をしたいと思っていました。

在宅緩和といっても、さまざまなスタイルがあります。わかばクリニックで在宅緩和支援をするためにはどうしたら良いかをずっと考えていました。最終的な結論としては、ご本人だけではなくて、在宅緩和する上では、そのご家族もちゃんと見てあげなければならないという事です。自分の家族を診るという事は、そのご家族の普段の健康も見てあげる必要があります。ですから、やはり地域に根差した医療が重要だと考えています。

今、癌の人もたくさんいらっしゃいますが、それ以上に認知症の人もたくさんいらっしゃいます。もし、自分の親が夜になって大暴れだしたりして、

自分の仕事が出来なくなったりしたら。仕事をし、働いてご高齢の世代を支えられる世代が、介護で働けなくなる。働ける人たちが働けなくなるというのは社会的にも結果的にマイナスが発生するわけです。 (右上段へ)



深刻な病気と言えば、癌ばかりが目立ちますが、そうではないんです。癌の人は、そのイメージからまわりから大切にケアされ、かわいそうともちゃんと言ってもらえます。

しかし、認知症の人は分けのわからないことばかり言うというイメージですから当然理解も得られにくいですし、ケンカにもなるわけです。そして、家庭崩壊してしまうんです。これはとても悲しいことです。

認知症の人は、家で最期をむかえたいという人もいます。そのような方、そのような方のご家族に「100%協力しますから」と言って寄り添えるクリニックでありたいと思っています。

社会的な問題として、認知症の問題は我々が思っている以上に大きいと最近つくづく思います。ですからそのために、私達クリニックが助けられる場所が必要です。これからも、地域の在宅診療に関わらせていただく中で、ご本人やご家族から発せられる声を一つ一つ心で聴き、その声に応えていけるよりよい医療を行ってまいりたいと願っております。

(次回号より訪問診療のあれこれをご紹介します)

## ～従業員紹介～午前勤務の看護師です(^)/

当クリニックには午前勤務の看護師が2名います。前回号でその1名をご紹介しますいただきましたが、今回はもう一人の岡崎久美（おかざきくみ）をご紹介します。

当クリニックでの勤務歴は1年4カ月、見た目通り物静かで優しい看護師です。家族の関係から午前中だけの勤務になります。

どうぞお気軽にお声掛けください。



## <お知らせ>

- 院長不在のため1/16（土）は片桐先生、1/23（土）は由谷先生の診療となります。

 わかばクリニック

〒862-0903 熊本市東区若葉3丁目13-20

☎096-285-6014 web : wakaba-cl.jp